

ニカラグア：秋の総選挙に向けた動き 前編 1

Opinion

The Run-up to Nicaragua's 2021 Elections: Part One

ニカラグア：秋の総選挙に向けた新たな策動

06 July teleSUR

この地球上には、国際的な政治的干渉を受けない社会主義国はありません。ニカラグアもそのひとつです。

.....

まえがき

1979年、ニカラグアの人々は、王朝のソモサ家が監督する米国の独裁政権に反対して立ち上がった。これが「サンディニスタ革命」だ。

この革命は、FSLNの若者たちが主導し、無料の教育、無料の医療、農地改革、その他の基本的人権を初めて国に導入した。

それは当時、世界中の人々に刺激を与えた。

残念ながら、この革命は米国の武力干渉によって流産させられた。10年間にわたり爆撃、経済封鎖、偽情報による攻撃、大量虐殺が行われた。

ニカラグアは1990年に米国のカイライ政権のもとに置かれた。

カイライ政権は緊縮財政と民営化を実施し、16年間にわたりネオリベリズム支配を続けた。サンディニスタが実現した社会的利益の多くが根こそぎにされた。

しかしその間も、サンディニスタは国民の間に根を張り続けた。そして2007年の大統領選挙で勝利を収めて再び政権を握った。サンディニスタ政府の初代大統領だったダニエル・オルテガが再び大統領に就任した。

それ以来、国は再び、貧困撲滅、識字率の向上、食糧主権、国民皆保険、無料教育、まともな住宅、エコロジー農業、グリーンエネルギー、労働者の権利確保、ジェンダー平等のプログラムを実施し、社会の最貧層を向上させる使命に着手した。そしてさらに先住民の自治を重視した。

2021年の予算では、その58%が社会的支出に割り当てられており、健康、教育、住居、平等は重要な人権の柱と見なされている。

.....

前編「2018年の失敗したクーデターとその影響」

民主主義と平等を目指す意欲的な計画を打ち出したことで、FSLNは国際社会の多くの国々の注目を集めている。しっかり管理された自由市場プラス計画経済という「混合経済モデル」は、2007年以降の国家経済とサンディニスタ政権を維持するのに役立ってきた。

それはニカラグアを進歩の前線に置くこととなった。そしてニカラグアが、かつての占領者の形を変えた植民地となることを拒否することにつながった。

しかし米国は、モンロー主義からコンドル作戦、そして現代の帝国主義まで一貫して、ラテンアメリカを自分の家の裏庭と見なしてきた。

天然資源の収奪、安い労働力、そして快適な休暇のための歓楽地。だからそこが思想的、経済的に自立することは我慢ならない。

だから 2018 年、10 年続いたサンディニスタの政治をもはや許さず、米国はもう一つのクーデターを試みた。

1980 年代のときのように、今度も新たな「コントラ勢力」が用いられた。

ニカラグアの国内外で雇われ反政府勢力が立ち上げられた。彼らはサンディニスタを政権の座から引きずり下ろすために、一方では街頭暴力を仕掛け、他方ではメディアを使ってフェイク情報を垂れ流した。

(この試みは惨めにも失敗を遂げた。経過については、私をふくむ有志視察団が報告している)

この年の、「コントラ勢力」と米国政府との隠されたコネクションは詳細に判明している。

(Ben Norton at The Grayzone; Stephen Sefton at Tortilla con Sal ; John Perry in various places)

作戦の主な資金提供者は、USAID と NED だった。どちらも CIA や米国国務省の秘密(および明白な)工作部門であった。

またゲイツ、ロックフェラー、フォード、パフェット財団もこの動きに絡んでいた。(The Gates, Rockefeller, Ford, and Howard Buffet Foundations)

これらの組織は慎重に、さまざまな研究機関、NGO、シンクタンクなどのトンネル組織を経由して、コントラに資金を注ぎ込んだ。

ニュー・コントラの妄動

ニュー・コントラの仕掛けた「人民抗議闘争」は、FSLN 政府を打倒するのには不十分だった。それは民衆の多数がサンディニスタへの忠誠を貫いたからである。

犯罪組織がニカラグアの周辺国から狩り集められ、コントラに扮して暴力行動を繰り返した。彼らは幹線道路を封鎖し、町や都市を遮断し、多くの民衆を恐怖に陥れた。

これらの道路の封鎖では、暴力と脅迫が当たり前であった。コントラによる殺人、誘拐、レイプが数多く発生した。

サンディニスタ党员と労働組合活動家は、コントラによる襲撃と暗殺の標的となった。

オルテガ大統領は当初、非常に慎重だった。暴力的で権威主義的だと宣伝されることを恐れたからだ。彼は警察に基地にとどまるよう命じた。

しかし、暴力はさらにエスカレートした。人々は助けを求め、やむを得ず警察が介入した。その結果、警察はコントラの暴力の標的になった。

メディアの情報操作

事件は西側の報道機関によって、故意に著しく誤って伝えられた。彼らは政府が暴力の実行者だとし、オルテガを独裁者と呼んだ。

2018年に起きた出来事を報道する情報源は、多くが米国から資金提供を受けた「ラテンアメリカ・プレッサ」紙や「Confidencial」などの野党系メディアだった。

どちらも、コントラと米国の政府・非政府機関との資金・思想上のつながりを完璧に無視した。そして「抗議運動」の無茶苦茶にも、FSLNの実現した成果にも、一言も触れなかった。

重要な記事

以下の記事も参考にしてください

[How US govt-funded media fueled a violent coup in Nicaragua](#)

MAX BLUMENTHAL AND BEN NORTON·JUNE 12, 2021

[How USAID created Nicaragua's anti-Sandinista media apparatus, now under money laundering investigation](#)

BEN NORTON·JUNE 1, 2021

ミシェル・バチエレが嘘をつくわけについては

[Michelle Bachelet, UN High Commissioner for the Defense of Organized Crime](#)

June 23rd 2021

Stephen Sefton, Tortilla con Sal,